

誰もが安心して暮らせる豊かな社会

神田 耕治

この旅行には前から参加したいと思っていましたが、時間や費用などの都合もあり、なかなか実現しませんでした。今回は、これが最後になるかもしれないと聞き迷わず参加しました。

こうあり得る存在証明

これまで読んだり聞いたりしたことを、自分の目で実際に見て、デンマークの良さを直接感じることができました。

わずか1週間の滞在で、言葉の壁もあり、デンマークを垣間見たのに過ぎないかもしれませんが、日本とは違う社会をそこにきて、強い印象を受けました。

福祉や教育がこうあるべきという議論ではなく、こうあり得るといふ存在証明は、何よりもの説得力でした。



自己決定

デンマークでは、自己決定が原則です。それは、権利でもあり義務でもあります。このため、若年者が、パラサイト・シングルやニートになったりすることは許されません。高齢者もその子どもたちも同居を考えません。これは、必ずしも家族関係が弱いということではなく、社会の選択であり、価値判断の問

題です。それは、ある意味では厳しい選択でもあります。

少子高齢化がもたらす様々な問題を個人の問題としてしまわないために、日本でも今後進むべき方向と私には感じられました。

パワフル女性

デンマークを一言で表現すれば、“誰もが安心して暮らせる豊かな社会”と言えるように思います。日本は、すこし極端に言えば、“誰も安心して暮らせない豊かな社会”と言えるかもしれません。

デンマークの人たちは、みな明るく、自分を大切にし、生活を楽しんでいるように見えました。特に女性は、精神的にも肉体的にもパワフルでした。

せかせかするというような言葉は、デンマーク語には無いのではと思ってしまいます。

経済力をくらしの豊かさへ

日本の持つ経済力を、モノの豊かさから暮らしの豊かさに転換できれば、日本はずっと住みやすい社会になることを、デンマークは示してくれています。

そのためには、単に福祉や教育の制度を変更するのでは不十分で、私たちがどう暮らしたいのかを考え、自分のこととして意思表示することが大切だと思います。

それはとても時間のかかることですが、それだけの価値があることを、デンマークの人たちは教えてくれました。

HPIは [ひの社会教育センター](#) 検索で